

河津・来宮神社と大楠について

【来宮神社】

河津の来宮神社は杉鉾別命（すぎほこわけのみこと）を祀ることから、杉鉾別命神社とも呼ばれています。平安時代に作られた「延喜式」という書物の中にも記されている、古く格式のある神社です。

【大楠】

境内にあるクスの木は県下有数の巨木であり、目通り14メートル、高さ24メートル、樹齢は千年以上といわれ、国の天然記念物に指定されています。地域では「来宮様の大クス」と呼ばれ、古来より御神木として崇められてきました。

河津には、江戸時代から明治時代中頃まで「河津七抱七楠（ななかかえななくす）」と呼ばれるクスの巨木が7つあったそうで、その中で現存する唯一の巨木です。

【鳥精進・酒精進】

この神社の氏子は12月18日から23日まで鳥肉や卵を食べず、酒も飲まない「鳥精進酒精進（とりしょうじん さけしょうじん）」という風習があります。これは、祭神の杉鉾別命が酒に酔い、野火に囲まれた時、たくさんの小鳥たちが羽に水を含ませて火を消し、野火から命を守ったという故事によるものです。この行事は、現在でも町内外の氏子や崇敬者により守り伝えられています。